



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 47 No. 2
April 2022**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

2022 年度年会費の納入のお願い	13
社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い	14
第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 5 報）	15
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第 2 報）	19
第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	21

その他のお知らせ

株式会社新日本科学 試験従事者募集	22
構造活性フォーラム 2022	23
ISM-8 会告	23

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

2022 年度年会費の納入のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員） 各位

日本毒性学会定款第 11 条（会費）に基づき、2022 年度の会費の納入を受け付けております。会費は日本毒性学会の運営・活動の原資となりますので、年会費の納入をお願いいたします。

2022 年度 一般社団法人日本毒性学会 年会費

- 一般会員： 9,000 円
- 評議員： 12,000 円
- 学生会員： 3,000 円

※ 2021 年度より一般会員，評議員については年会費が値上げされています。

本年 3 月に一斉配信メールにてお知らせいたしましたとおり，評議員および一般・学生会員は会員専用マイページの会費納入状況のページより年会費のクレジットカード決済が可能となっております。2021 年度以前の未払いの年会費についても，同様の手続きでクレジットカード決済が可能です。

ログイン URL：<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>

なお，従来どおり郵便振込による会費納入も可能です。振込先口座情報もマイページの会費納入状況のページ画面にてご案内いたしておりますので，そちらをご参照ください。

5 月末日までにクレジットカードか郵便振込による会費納入が確認できなかった会員宛には，6 月以降，郵便振込用紙を順次郵送します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人日本毒性学会
理事長 菅野 純
総務委員長 高橋 祐次

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第4章に定められておりますように「社員総会」を、2022年学術年会期間中に開催いたします。ご承知のとおり、本学会は2014年（平成26年）5月1日に一般社団法人となり、重要な案件は社員総会において決定されます。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は2022年4月以降にメール等にてご連絡させていただく予定です。

社員総会の決議には、定款第24条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の「過半数」を有する社員の出席が必要です。定足数に満たない場合は社員総会として成立しなくなり、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すこととなります。社員総会にご欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状のご提出をお勧めくださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。

記

2022年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会
日 時：2022年7月1日（金）13時10分～14時10分
場 所：第49回日本毒性学会学術年会 第1会場
（札幌コンベンションセンター 特別会議場）
議 案：1. 2021年度事業報告および収支決算
2. 2022年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

2022年4月
一般社団法人日本毒性学会
理事長 菅野 純

第 49 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)

(年会ホームページ: <https://www.jsot2022.jp/>)

※本年会は現地開催を予定しております。

1. 会 期
2022 年 6 月 30 日 (木) ~ 7 月 2 日 (土)
2. 会 場
札幌コンベンションセンター
〒 003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1
TEL : 011-817-1010
URL : <https://www.sora-scc.jp/>
3. テーマ
One Health と毒性学
4. 年会長
石塚真由美
(北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医学分野毒性学教室)
5. プログラム委員 (敬称略・五十音順)
鈴木 睦 (協和キリン (株))
高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
吉成 浩一 (静岡県立大学)
6. 特別企画 (予定, 仮題, 敬称略, 順不同)
 - 1) 第 19 回市民公開セミナー
日時: 2022 年 7 月 3 日 (日) 13:30 ~
会場: 北海道大学大学院獣医学研究院講堂
講師: 齊藤 慶輔 (猛禽類医学研究所)
 - 2) 年会長招待講演
 - 3) 特別講演
「メチル水銀の胎児影響」
坂本 峰至 (環境省 国立水俣病総合研究センター)
 - 4) 教育講演
 - (1) 「生命科学としての医薬品安全性評価」
堀井 郁夫 (ファイザー)
 - (2) 「人新世における環境毒性学 (仮題)」
渡辺 知保
(長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科)
 - (3) 「コロナ禍におきたワクチン開発研究の破壊的イノベーションとレギュレーション革命」
石井 健
(東京大学医科学研究所ワクチン科学分野)
- (4) 「Global Assessment of the Impacts of Pharmaceutical Pollution」
Alistair Boxall (University of York, UK)
- 5) シンポジウム
 - ・マイクロサンプリングの現状と展望
 - ・薬剤安全性に関する個体差研究
 - ・我が国における新規試験法開発大型プロジェクトの成果と今後の進展
 - ・子供の毒性学: 脳高次機能の形成異常の諸要因
 - ・【韓国毒性学会合同シンポジウム】肺毒性に関する最新研究
 - ・COVID-19 重症化・後遺症のリスク管理と対策
 - ・化学物質による免疫毒性: 毒性発現機序と生体防御機構
 - ・ヒト用医薬品の環境リスク評価研究の進展と将来展望
 - ・未解決問題 - 抗体療法におけるサイトカイン放出症候群 -
 - ・事例紹介: ノックアウトマウスのオンターゲット毒性情報を候補化合物の開発にどのように結びつけるのか - 事例紹介
 - ・生体金属部会シンポジウム: ~ヒ素の毒性発現機序の解明に向けた挑戦~
 - ・拡大する MPS 研究 - 「魔の川」と「死の谷」を越えて
 - ・生体金属部会シンポジウム: ~若手研究者による毒性学研究を支える元素分析の最先端~
 - ・動物実験の 3Rs の更なる進展に向けて
 - ・【日本中毒学会合同シンポジウム】バイタルサインをモニタリングするための最先端技術の基礎と臨床
 - ・ダイオキシン類およびダイオキシン受容体の発生毒性学の新たな展開
 - ・【日本毒性病理学会合同シンポジウム】rasH2-Tg(tg/wt) マウスを用いたがん原性評価
 - ・次世代の実験動物として小型魚類 (ゼブラフィッシュ・メダカ) の可能性 - 毒性研究の新たな役割
 - ・毒性試験では検出が困難な臨床副作用 - 非臨床からの新たなアプローチ その 2 (各論)
 - ・精巣毒性・精子機能評価の新展開 - 身の回りの環境要因との関わりとヒトへの外挿を目指して -
 - ・リードアクロス研究の新機軸: 安全性評価・規制利用からドラッグリポジショニングへ
 - ・ICH E14/S7B Q&A の最新情報と評価戦略に関する新展開
 - ・先進的 in vitro ヒト外挿モデルの安全性研究への応用

- ・環境生物に対する化学物質の影響評価
 - ・「ケース・バイ・ケース」で考えるバイオ医薬品の非臨床安全性評価への新たなアプローチ
 - ・動物試験 up to date ~ Outreach と Well-being の視点から~
 - ・近位尿細管上皮細胞の三次元培養モデルの有用性 - 腎薬物動態・毒性の予測を目指して -
 - ・ACT (American College of Toxicology) International Session (仮題)
 - ・精度の高い発達神経毒性評価を目指した研究アプローチ
 - ・医薬品の投与と授乳に関するリスク評価及びリスクコミュニケーション
 - ・食品安全に資する食品・食品添加物の健康影響評価と品質評価法の基盤開発
 - ・遺伝毒性研究のフロントライン：ゲノム不安定性の制御を見据えたハザードの同定とそのリスク評価
 - ・AI が牽引する生物学の展望と毒性学
 - ・計算機科学を活用したヒトの有害事象研究の現状と展望
 - ・若手研究者による野生動物毒性評価最前線
 - ・【日本癌学会合同シンポジウム】 発がん性評価法の分子背景と展望 2.0 - エピゲノム, 変異シグネチャーから見たヒト外挿考察 -
 - ・臨床・非臨床横断的な CDISC 標準データの新薬開発におけるさらなる利活用を目指して
 - ・サリドマイド研究の新展開：代謝から種差を説明する
 - ・周産期の甲状腺機能低下による次世代影響
 - ・近年の眼科領域における医薬品応用と毒性評価
 - ・概日リズムを考慮した毒性学：「時間毒性学」
 - ・次世代研究セミナー：法医学と毒性学の新たな邂逅
 - ・【SOT-JSOT 合同シンポジウム】 Latest insight into metal toxicity at the molecular level
 - ・ナノマテリアルの新規評価手法の発展
 - ・遺伝子・細胞治療薬開発とその安全性評価
- 6) ワークショップ
- ・小児用医薬品開発における非臨床試験の課題
 - ・新毒性質問箱：医薬品開発初期における非臨床安全性評価の現状と課題を語り合う～ PMDA と開発企業、点と点を結ぶ新たな挑戦～
 - ・エクスポソームの新戦略
 - ・新規治療モダリティの first-in-human 臨床試験の初回用量設定における安全性又は有効性からの観点
 - ・創薬・開発安全性研究を牽引する in vitro 研究の現状
 - ・毒性試験では検出が困難な臨床副作用—非臨床からの新たなアプローチ その1 (総論)
 - ・トキシコロジストのキャリア形成支援プログラム座談会：トキシコロジストにとっての学位とは？

7. 一般演題募集

- 1) 一般演題（口演およびポスターでの発表）を募集します。
主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限りますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ：http://www.jsot.jp
なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。（口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です）
※本年会は現地開催を予定しております。ご発表は現地会場をお願いします。
 - 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記 8 に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。
- 演題申込締切日：**
2022 年 4 月 4 日（月）
- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。
口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて 10～15 分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第発表者へ E-mail にてお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。
 - 4) 優秀研究発表賞応募演題
2022 年 3 月 31 日時点で 35 歳以下の方を対象として候補者を募集します。
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。
応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第 1 日目（6 月 30 日（木））に行っていただきます。受賞者の発表は第 2 日目、授賞式は第 3 日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。
 - 5) 学生ポスター発表賞応募演題
学術年会（2022 年 6 月 30 日（木））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象とします。
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。
審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第 1 日目（6 月 30 日（木））に掲示し、受賞者の発表は第 2 日目、授賞式は第 3 日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※上記, 4), 5) の賞への重複申請は不可とします。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。発表者個人情報登録→一般演題登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号(5桁)が必要です。パスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なお、パスワードはメニューページの「パスワードを変更する」より変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

詳細については、年会ホームページをご確認下さい。

2-3) 発表形式

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：

最大全角80文字(スペース含め)

英語演題名 文字数：

最大半角200文字(スペース含め)

なお、演題名に特殊文字/上付き/下付き/ボールド/イタリックなどの文字を含む場合には、下記ページのHTMLタグを使用し、入力して下さい。

ただし、このHTMLタグは、上記文字数にはカウントしません。

<タグ一覧/特殊文字一覧/よく使用する特殊文字ページ>

http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html

2-5) 要旨作成要領

日本語及び英語の要旨のご提出をお願いしております。本文の文字数は、日本語：全角として800字以内、英語：半角として1600字以内(スペース含む)です。上記文字数を超えると登録できませんので、ご注意ください。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

2-6) 利益相反

年会ホームページの演題募集のページにてCOI規程をご確認の上、演題登録時にCOIの有無を選択して下さい。

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行う場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると演題登録番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

9. 参加登録および参加費

年会事前参加申込締切日：

2022年5月11日(水)

懇親会事前参加申込期間：

2022年4月1日(金)～5月11日(水)

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と懇親会費は「課税(消費税込)」となります。

カテゴリー	事前参加 登録	当日参加 登録
会員	12,000 円	14,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
関連学会会員 *1	13,000 円	15,000 円
非会員	15,000 円	17,000 円
懇親会費 (一般)	8,000 円	10,000 円
懇親会費 (学生)	2,000 円	2,000 円

*1 次の学会会員の方です。(50音順)

共催：日本中毒学会
日本毒性病理学会
日本免疫毒性学会
日本薬理学会
米国 SOT (Society of Toxicology)

協賛：日本安全性薬理研究会
日本医薬品情報学会
日本衛生学会
日本環境化学会
日本環境毒性学会
日本環境変異原ゲノム学会
日本産業衛生学会
日本実験動物学会
日本獣医学会
日本食品衛生学会
日本食品化学学会
日本先天異常学会
日本動物実験代替法学会
環境ホルモン学会(日本内分泌攪乱化学物質学会)
日本薬学会
日本薬物動態学会
比較眼科学会

2) お支払い方法

・クレジットカード

※決済等の詳細については、年会ホームページ
をご確認下さい。

※年会参加費には、下記が含まれます。

・年会参加証 (領収証付)
・年会プログラム集 (冊子体) ※会場で配布予定
・年会プログラム要旨集 (PDF) ※冊子体はご
ざいませぬ。

※懇親会費には、下記が含まれます。

・懇親会参加証 (領収証付)

10. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご
参加下さい。

日時：2022年7月1日(金) 18:45～

場所：サッポロビール園

<https://www.sapporo-bier-garten.jp/>

11. 展示, ランチョンセミナーなどの募集

展示, ランチョンセミナー, 広告掲載を募集し
ます。詳細については年会ホームページをご覧
下さい。

12. 年会事務局

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医科学分野
毒性学教室

事務局長：中山 翔太

E-mail：secretariat@jsot2022.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第2報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第25回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には4月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2022年4月26日（火）～認定トキシコロジスト試験前まで

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. 申 込

1) 申込期間

2022年4月15日（金）まで

2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麴町支店（021）

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

*振込手数料はご負担ください。

*ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名（会員の方は会員番号）、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい。

4) 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：5,000円

非会員：30,000円 学生非会員：8,000円

認定トキシコロジスト：20,000円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

*申込者ご本人のみの受講となります。

*ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

5) その他

*受講修了者には受講証明書を発行します。

「第23回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2022年6月30日(火)～7月11日(月)

*録画・録音・撮影、及び資料の二次利用は固くお断りいたします。

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. プログラム(仮)

1) トピックス SOT2022

猫本 千波 先生(塩野義製薬株式会社)

「AM05: Importance of Sexual Maturity and Reproductive Senescence in Laboratory Animal Models」

坂口 泰子 先生(協和キリン株式会社)

「PM09: Leading-Edge Microbiome Methods for Toxicological Applications」

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー:

“マイクロ/ナノマテリアル粒子による影響”

石橋 弘志 先生(国立大学法人愛媛大学大学院)

「PFASsによる環境汚染と毒性影響評価(仮)」

高橋 祐次 先生(国立医薬品食品衛生研究所)

「粒子毒性学 基礎」

中山 祥嗣 先生(国立研究開発法人国立環境研究所)

「PFASの健康影響:疫学調査とメカニズム研究」

美谷島 克宏 先生(東京農業大学)

「非病理担当者のための病理学講座～今さら聞けない特殊染色で何が分かるか(仮)」

4. 参加費(予定)

事前申込

会 員	5,000 円
非会員	7,000 円
認定トキシコロジスト	3,000 円

*領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

*キャンセルに伴う返金に関しては、納入済み受講料の返金は原則としていたしませんのでご了承下さい。

*申込者ご本人のみの受講となります。

「第25回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時

2022年11月20日(日) / 予備日:11月27日(日)
台風等の自然災害により11月20日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前(11月18日17時)までに受験者へご連絡いたします。

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2002年、2007年、2012年、2017年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は2022年4月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年5月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2022年6月にご案内いたします。

第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 48 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 47 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒 100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

その他のお知らせ

株式会社新日本科学 試験従事者募集

職種名	非臨床試験の試験従事者
職務内容	免疫及び病理関係の試験従事者業務
募集人数	若干名
応募資格	①フローサイトメトリー, ELISPOT の測定経験者. 経験年数は不問 ②免疫毒性評価, 免疫学的な薬効評価の試験責任者経験者. 経験年数は3年以上 ③病理標本作製(切り出し, 包埋, 薄切, 特殊/免疫染色など)あるいは病理解剖経験者. 経験年数は不問
勤務地	鹿児島県鹿児島市
待遇	別途ご相談
応募方法	履歴書, 職務経歴書, 研究内容等を E-mail にて送付
応募締切	随時
連絡先	株式会社新日本科学 総務人事部 担当者: 西木場 洋子 〒 891-1394 鹿児島県鹿児島市宮之浦町 2438 TEL : 099-294-2600 FAX : 099-294-3619 E-mail : saiyo@snbl.co.jp
その他	

構造活性フォーラム 2022

「*In silico* アプローチによる毒性予測研究および周辺分野の現状と展望」

主催 日本薬学会構造活性相関部会
 協賛 日本化学会, 計算情報科学生物学会 (CBI 学会)
 後援 日本毒性学会
 会期 2022年6月3日(金)
 会場 オンライン開催
 フォーラムホームページ
<http://www.qsarj.org/forum2022> (4月公開予定)

開催趣旨

化学物質の安全性を確保するために、毒性の評価は必須の課題である。毒性物質を効率的に識別する方法として、*in silico* 技術を用いた予測法の確立には大きな期待が寄せられている。しかし、毒性は一般に複雑な発現メカニズムを伴うことから、予測が困難な対象として知られている。毒性発現過程には、組織・臓器への暴露に関連する体内動態の要因、生体内高分子であるタンパク質や核酸との相互作用、そしてそれに続く多様な生化学経路が関与する。そのため、単一のタンパク質を解析対象とすることは困難であることが多い。肝毒性の様に同じ表現型であっても、原因物質ごとに異なる機序で誘発される例もある。一方、予測モデルの説明性に対する要望は極めて強い。本フォーラムでは、このような毒性関連の生理的なイベントを *in silico* 技術でひもとき、解析し、予測する研究について議論を深めたい。様々な形で毒性関連の研究に携わっている方々にとって有意義な意見交換の場となれば幸いである。

プログラム

基調講演
 「毒性発現メカニズムに基づく一般化学品の毒性予測
 —AI-SHIPS プロジェクト—」
 船津 公人 (奈良先端科学技術大学院大学)

講演 1
 「Applicable Artificial Intelligence Method to Drug Metabolism and Pharmacokinetics -Comparison of Various Methods for Metabolic Active Sites-」
 笹原 克則 (Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, Inc.)

講演 2
 「大規模変異原性データを用いた第二回 Ames/QSAR 国際チャレンジプロジェクト」
 古濱 彩子 (国立医薬品食品衛生研究所)

講演 3
 「AI 創薬の基盤とデータ統合」
 水口 賢司 (大阪大蛋白質研究所・医薬基盤健康栄養研究所)

講演 4
 「拡散方程式の ADMET 予測モデルへの適用」
 日高 中 (武田薬品工業)

講演 5
 「副作用研究における AI の可能性」
 奥野 恭史 (京都大学大学院医学研究科)

参加登録および申込締切日

5月20日(金)までに、フォーラムホームページから事前参加登録をお願いいたします。参加人数が上限に達しましたら、参加登録を打ち切らせていただきますのでご了承ください。

参加費

一般会員・関連学会員	1000円
非会員	2000円
学生	無料

問合先

構造活性フォーラム 2022 実行委員会
 植沢 芳広 (実行委員長)
 〒 204-8588 東京都清瀬市野塩 2-522-1
 明治薬科大学
 Tel: 042-495-8983
 E-mail: uesawa@my-pharm.ac.jp

ISM-8 会告

ご挨拶

謹啓

時下、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度私は、メタロミクスに関する国際会議の国際運営委員会議長である Ryszard Łobiński 教授のご要請を受け、第8回メタロミクスに関する国際会議 (The 8th International Symposium on Metallomics; ISM-8) の組織委員長に就任し、2022年7月11日~14日、金沢商工会議所会館にて開催を計画いたしております。ISMは、これまで2年に1度開催され、前回2019年にワルシャワで開催された後、2021年に千葉で開催する予定でしたが、COVID-19の影響により、1年延期をいたしました。メタロミクスとは名古屋大学名誉教授の原口紘亮先生が提唱された学術用語で、生命と金属・元素に関わる学問領域を包括しています。原口先生が、第1回目のISMを名古屋で開催して以来、ISMを15年ぶりに日本で開催することになりました。まさに日本で生まれたISMが、今回再び日本に帰ってくるようになります。

ISMは、生命金属の計測・分析、基礎生命科学そして創薬や臨床まで幅広く生命と金属・元素に関わるトピックスを国内外の研究者が議論する場となっております。さら

に今回の ISM-8 では、併せて企業のブース展示も行います。また、一部の発表はオンラインで行うハイブリッド形式も想定して準備を行っております。

本国際会議のトピックスとして、必須微量元素の恒常性の維持機構、金属含有酵素の機能とその異常による疾病機構の解明、金属含有医薬品の創製、栄養素の代謝機構、有害微量元素の環境汚染とその人への影響評価や毒性発現の機構、これらの基礎となる元素の分析法などが挙げられ、生命金属の研究に関連した広範な成果が発表されます。多岐にわたる分野の研究者が生命金属に関する最近の進歩を持ち寄り、意見を交換し、新たな着想に結び付くような実り多い学術集会とすることができるよう努力いたします。

本国際会議を通して、日本の研究者の当該分野におけるプレゼンスを高めることにより、これまで培ってきた世界の先導的立場を今後も維持したいと考えております。つきましては、本国際会議が円滑に行われますようご支援を賜れますことをお願い申し上げます次第です。

謹白

令和3年8月吉日

ISM-8 組織委員長
千葉大学大学院薬学研究院 予防薬学研究室 教授
小椋 康光

開催概要

学術大会の名称

The 8th International Symposium on Metallomics (ISM-8)

主催名称

ISM-8 組織委員会

共催名称

文部科学省科学研究費助成事業 新学術領域研究
「生命金属科学」
国立大学法人 千葉大学

特別後援

プラズマ分光分析研究会

後援学会（予定含む）

(公社) 日本薬学会, (公社) 日本生化学会,
(公社) 日本分析化学会, (公社) 日本化学会,
(一社) 日本衛生学会, (一社) 日本毒性学会,
日本食品化学学会, 日本ヒ素研究会, 日本微量元素学会,
日本法中毒学会,
Royal Society of Chemistry (英国王立化学会),
金沢コンベンションビューロー

大会組織

名誉組織委員長
原口 紘炏 (名古屋大学)

組織委員長

小椋 康光 (千葉大院薬)

共同組織委員長

平田 岳史 (東大院理)

事務局長

沖野 晃俊 (東工大未来研)

会計責任者

鈴木 紀行 (千葉大院薬)

実行委員

稲垣 和三 (産総研)

梅村 知也 (東京薬大生命)

沖野 晃俊 (東工大未来研)

川原 正博 (武蔵野大薬)

菊地 和也 (阪大院工)

志村 まり (国立国際医療研究センター)

平田 岳史 (東大院理)

保倉 明子 (東京電機大工)

安井 裕之 (京都薬大)

事務局 (千葉大院薬)

福本 泰典

田中佑樹

国際諮問委員 (IAB)

国内組織委員 (LOC)

別添 1

開催日

2022年7月11日(月) - 14日(木)

開催場所

金沢商工会議所会館

参加予定数

200名(うち海外参加者 約80名)

大会概要

ウェルカムパーティー

特別講演

シンポジウム

一般講演(口頭発表)

一般講演(ポスター発表)

エキスカッション

パンケット

ポストカンファレンス: 2022年7月15日(金), 東京大学

事務局

千葉大学大学院 薬学研究院 予防薬学研究室

TEL/FAX: 043-226-2945

E-mail: ism-8@chiba-u.jp

ホームページ

<http://www.ism-8.jp/>

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



マウス・ラット・マーモセット

● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl*
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl*
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl*
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl*, 129^{+Ter}/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

● 疾患モデル

免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*
C.B-17/ICr-*scid* Jcl
NOD/Shijic-*scid* Jcl
ALY[®]/NscJcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A^y/Tajcl
BKS.Cg-*m*+/*Lepr^{db}*/Jcl*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

● 疾患モデル

網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

● 遺伝子改変動物

短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

膵がん短期発がんモデル

- ラット** Kras301/Jcl

生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]
BALB/cAjcl [Gf]

● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

その他の取り扱い動物

● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店
(株)野村事務所を通じて国内販売

実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

* This substrain is at least (a number>20 by definition) generations removed from the originating JAX® Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory.®



www.CLEA-Japan.com

東京A D部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7050(代)
大阪A D部	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7101(代)
【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】		
東京器材部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7600(代)
大阪器材部	〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7105(代)
札幌出張所	〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28	TEL.011-631-2725(代)
仙台出張所	〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24	TEL.022-352-4417(代)

医薬品開発のトータルサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

- 開発段階に応じた試験の実施 -

例： 非臨床探索、GLP、臨床開発（薬物濃度測定）

- ワンストップサービス -

毒性、薬物動態、薬効薬理、非臨床コンサルティング・メディカルライティング

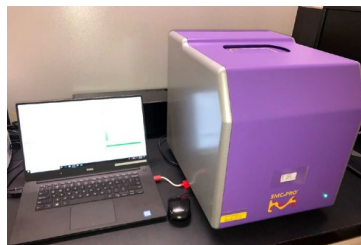
豊富な経験と実績

- 年間500試験を超えるバイオ医薬品の受託実績
- 各種バイオマーカーの測定と評価

LSRFortessa X-20
(BD Biosciences)



SMCxPRO
(Merck Millipore)



TRIPLE QUAD 7500
(AB SCIEX)



- AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）
在外子会社を含め全ての施設で完全認証を継続
- FDA IND/NDA電子化申請対応（CDISC SEND）



お問い合わせ先
株式会社新日本科学



ケー・イー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

▶ HepaRG®・初代肝細胞



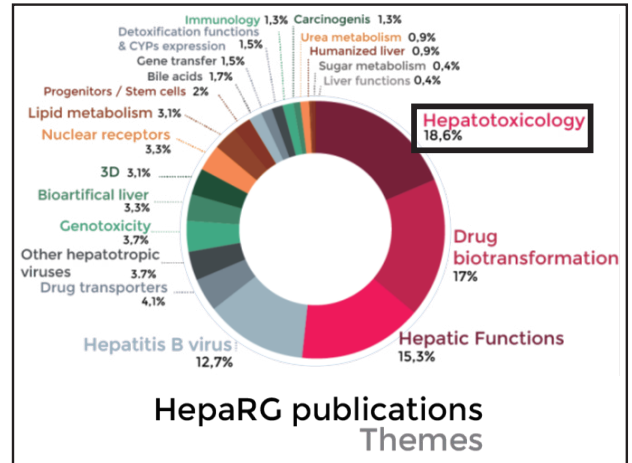
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。



▶ ECACC標準株細胞・核酸製品

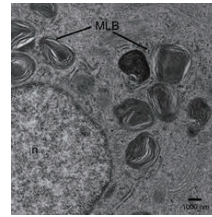
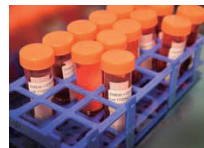


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>

▶ これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーイーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

SLCの実験動物



マウス

- **アウトブリード**
Slc : ddy
NCS
Slc : ICR
- **インブリード**
DBA/1 JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NcrSlc-C57BL/6JmsSlc
C3H/HeSlc
C3H/HeNSlc
C3H/HeJYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129X1/SvJmsSlc
- **B10コンジェニック**
C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc
- **ハイブリード**
B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
※上記以外の系統については御相談ください。
- **ヌードマウス(ミュートン系)**
BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)
- **疾患モデル**
BXSb/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)
WB6F1/Ki;Kl^{tr}/Kl^{tr}/Slc(肥満細胞欠損症-Ki^{tr}/Kl^{tr})
NC/Nga(皮膚炎)
☆ Hos : HR-1(ヘアレスマウス)
☆ Hos : HRM-2(メラニン保有ヘアレスマウス)
★ SAMR1/TaSlc(SAMP系対照動物)
★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★ SAMP8/TaSlc(学習記憶障害)
★ SAMP10/TaldrSlc(脳萎縮・うつ様行動)

- ★ SAMP10-ΔSglt2 (SGLT2発育による腎性糖尿・脳萎縮を伴う学習記憶障害・うつ様行動)
- ★ AKITA/Slc(糖尿病)
- ☆ TSD (2型糖尿病)
- ☆ C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)
- ☆ C57BLKS/*ob*-*4Lepr^{ob}*/4-*Lepr^{ob}*(肥満・2型糖尿病-*Lepr^{ob}*)
- ☆ NSY/Hos(2型糖尿病)
- ☆ C57BL/6JHamSlc-A^{+/+}(肥満)
- ★ Daruna(肥満)
- ★ HIGA/NscSlc(1αA腎症)
- ★ B6.KOR/StmSlc-Apoe^{ko}(アポE欠損高脂血症-Apoe^{ko})
- ★ C.KOR/StmSlc-Apoe^{ko}(アポE欠損高脂血症-Apoe^{ko})
- ★ C.KOR/StmSlc-Traf3ip2^{ko}(アトピー性皮膚炎マウス-Traf3ip2^{ko})

ラット

- **アウトブリード**
Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST
Hos : Donryu
☆ lar : Wistar(Wistar-Imamichi)
☆ lar : Long-Evans
- **インブリード**
F344/NSlc
WKAH/HkmSlc
BN/SnSlc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/SaNSlc(薬物誘導性関節炎)
- **ヌードラット(ミュートン)**
Slc : Long-Evans-*rnulrnu*
- **疾患モデル**
★ SHR/izm(高血圧)
★ SHRSP/izm(脳卒中)
★ WKY/izm(SHR/izmのコントロール)
★ SHRSP/Dmcr(NASHモデル[HFC飼料給餌])
★ SHR/NDmcr-cpl/cpl(肥満・糖尿・高血圧-*Lepr^{ko}*)
★ SHRSP/Ezo(AD/HD)
★ SHRSP/Idmcr-*fa/fa*(肥満・高血圧・脳血管障害-*Lepr^{ko}*)
DIR/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lepr^{ko}*)
☆ Hos : ZFD-*Lepr^{ko}*(糖尿・肥満)
HWY/Slc(ヘアレスラット)
☆ Hos : OLETF(2型糖尿病)
☆ Hos : LETO(OLETFのコントロール)

モルモット

- **アウトブリード**
Slc : Hartley
- **疾患モデル**
J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

ハムスター

- **アウトブリード**
Slc : Syrian
- **疾患モデル**
J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

- **インブリード**
MON/Jms/GbsSlc
- **無菌動物**
- **インブリード**
F344/NSlc(GF)
☆ Tsl : C57BL/Ncr

ENVIGO(旧ハランOEM生物動物)

- **アウトブリードラット**
RecHan[®] : WIST
- **インブリードマウス**
CBA/CaOlaHsd
- **免疫不全モルモット**
C.B-17/*Tcf1Hsd-Prkdc^{scid}*
- **遺伝子改変動物**
- **アルツハイマー病モデル(認知症関連モデル)**
- ★ APP^{osk}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{osk})](認知症モデル)
- ★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](認知症モデル)
- ★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](認知症モデル)
- ★ APP^{wt}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{wt})]
- ★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)]
- **インマウス**
- ★ OSK-KI[C57BL/6-Tg(OSK-KI)](認知症モデル)
- **EGFPモデル**
- **マウス**
- C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
- **ヌードマウス**
- C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)
- **ラット**
- SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

ウサギ

- **アウトブリード**
Slc : JW/CSK
Slc : NZW

gpt deltaモデル

- **マウス**
- C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt delta*)
- **ラット**
- F344/NSlc-Tg(*gpt delta*)

その他(Conventional動物)

- **ビーグル犬**
- ☆ 国内繁殖生産(一財動物繁殖研究所)
- **マイクロミニビッグ**
- ☆ 国内繁殖生産(富士マイクラ株式会社)
- **ミニブタ**
- ☆ 国内繁殖生産
[日生研株式会社・NPO法人 医用ミニブタ研究所]
- **医学用ペーパータ**(大ヨークシャー)
- ☆ (静岡県畜産技術研究所 中小家畜研究センター)
- **フェレット**
- ☆ 自家繁殖生産(中伊豆支所)
- **コモンマーモセット**
- ☆ 自家繁殖生産(中伊豆支所)

受注生産動物

マウス

- **疾患モデル**
- C57BL/6 JHamSlc-*bg/bg*(NK細胞活性低下)
- CTS/Shi(免疫不全・白内障)
- (NZW×BXS)F1/Slc(紫斑症)

ラット

- **インブリード**
- ACI/NSlc
- **疾患モデル**
- GK/Slc(2型糖尿病)
- FH/HamSlc(脳内セロトニン系の機能不全)
- ★ F344/NSlc-Apoe^{ko}(大腸癌易誘発)
- Gunn/Slc-*jjj*(高ビリルビン血症)

モルモット

- **アウトブリード**
- Hos : Weiser-Maples(メラニン保有)

ウサギ

- **アウトブリード**
- Slc : JWF-NIBS(ヘアレス)
- ★印は受注生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178代 FAX(053)486-3156
http://www.jslc.co.jp/

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155代
関西エリア (053)486-3157代
九州エリア (0942)41-1656代

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗
高橋 道人	榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁
菅野 盛夫	黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭
土井 邦雄	長尾 拓	福島 昭治	津田 修治
吉田 武美	堀井 郁夫	大野 泰雄	上野 光一
山添 康			

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	永沼 章	姫野誠一郎	眞鍋 淳
安仁屋洋子	横井 毅		

[賛助会員]

(五十音順)

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

Charles River

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

(株)安評センター

EAファーマ(株)

(株)イナリサーチ

エーザイ(株)

(株)LSIM 安全科学研究所

大塚製薬(株)

小野薬品工業(株)

花王(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

科研製薬(株)

杏林製薬(株)

協和キリン(株)

興和(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

サントリ- MONOZUKURI エキスパート(株)

(株)三和化学研究所

塩野義製薬(株)

(株)資生堂

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

(一財)生物科学安全研究所

ゼリア新薬工業(株)

千寿製薬(株)

大正製薬(株)

大日本住友製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

帝人ファーマ(株)

(株)DIMS 医科学研究所

トーアエイヨー(株)

東レ(株)

(一社)日本化学工業協会

日本香料工業会

日本新薬(株)

ファイザー(株)

富士フイルム(株)

扶桑薬品工業(株)

(株)ボゾリサーチセンター

Meiji Seika ファルマ(株)

持田製薬(株)

(株)薬物安全性試験センター

ライオン(株)

[役員] (2020～2021年度)

理事長	菅野 純		
理事	青木 豊彦	上原 孝	小野 敦
	鍛冶 利幸	北嶋 聡	熊谷 嘉人
	古武弥一郎	児玉 晃孝	小林 章男
	佐藤 雅彦	鈴木 睦	高橋 祐次
	角崎 英志	苗代 一郎	平林 容子
	藤原 泰之	宮脇 出	森 和彦
	吉成 浩一		
監事	天野 幸紀		
	務台 衛		

[学術年会長]

第49回 (2022年) 石塚真由美

第50回 (2023年) 北嶋 聡

[委員会] (2020～2021年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●総務委員会	委員長	高橋 祐次
◆連携小委員会	委員長	北嶋 聡
◆評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	高橋 祐次
◆指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出

●財務委員会	委員長	青木 豊彦
	副委員長	森 和彦

●編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
◆JTS編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
◆FTS編集委員会	委員長	永沼 章
◆Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆田邊賞選考小委員会	委員長	吉成 浩一

●教育委員会	委員長	鈴木 睦
◆生涯教育小委員会	委員長	鈴木 睦
◆基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
	アドバイザー	古川 賢

●学術広報委員会	委員長	児玉 晃孝
◆学会賞等選考小委員会	委員長	堀井 郁夫
◆佐藤哲男賞選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆特別賞等選考小委員会	委員長	熊谷 嘉人
◆技術賞選考小委員会	委員長	宮脇 出
◆日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆学術小委員会	委員長	石塚真由美
◆広報小委員会・HP 担当	委員長	児玉 晃孝

★その他関連の委員会

○IUTOX 担当		
IUTOX Executive Committee, Director	熊谷 嘉人	
IUTOX Nominating Committee, Chair	菅野 純	
○ASIATOX 担当		
ASIATOX Council	小椋 康光	
○日本学術会議担当		
委員	石塚真由美	

2022年4月1日 印刷

2022年4月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 鍛冶利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161